

埼玉県の活動ママからの提言

3. 11市民ネット深谷

◆全ての子どもを平等にまもりたい！

国に求めることはどの自治体においても給食の精密な放射能測定をしてほしい。ということです。私たちは埼玉県内の全自治体の給食放射能対応を調査しました。

(詳しくは3. 11市民ネットのHPを参照 <http://fukaya311.jimdo.com/>)

項目は

- ・放射能測定の有無
- ・測定機の種類(ゲルマ、シンチ)
- ・測定器の自治体保有数
- ・検出下限値(対象の核種も)
- ・自治体測定機以外(外部委託など)
- ・給食方式、その数(給食センターか、自校式なのか)
- ・測定主体(役所の担当部署)
- ・検査方法(食材かミックスか)
- ・検査品目の選定基準
- ・食材の産地公開
- ・結果の公表方法(食べる前に結果が分かるのか)
- ・各施設の検査頻度
- ・検査の給食提供前後
- ・産地、品目の選別
- ・検出時の対応
- ・対象施設

分かったことは、自治体の意識レベルによって対策にかなりのばらつきがあることです。

こちらの市では毎日測定してくれているのに、隣の市では月に一度しか測ってなくて、しかも結果が分かるのは食べた後。というのでは、すべての子どもを平等に守ることはできません。なぜ隣の市ではしっかり測定してくれるのに、うちの市ではやってくれないの？と問うと「国が安全というから」という答えが返ってくるのです。だから国から変えていきたいのです。

そこで提言します。

★一番の理想！

- ・毎日、全食材を、子どもが食べる前に精密に測定し、結果を公表する(測ってもミックスで10Bq/kgまでとか無意味)
- ・検出されたものは、微量であっても給食には使用しない(というガイドラインを作る。代替食も含め)←国の基準とは相違することになるが・

★二番の理想！

- ・ミックス測定する場合はゲルマで0.1Bq/kgまで測る(横須賀市の例)←薄めずに。
- ・食材測定の際には全品測定は難しいだろうから、せめて17都県の対象品目と(添付資料に掲載)近海の魚だけは事前に測定を
- ・食材の産地は事前に公開して、保護者に判断をゆだねる
- ・そのうえで心配なものがあったらお弁当持参を認める

★三番の理想！

- ・17都県のせめてキノコ、山菜、淡水魚だけは事前測定
- ・移行係数の高いものも(移行係数も添付資料に掲載)
- ・17都県のキノコ、山菜、淡水魚は給食に使用しない(測定が行き届かないなら、危ないものは最初から使わない)
- ・測定と公表が食後になってしまうなら、一度検出されたものは給食にはもう使わない

北海道や九州の食材を測ったり、検出下限値が高すぎたりで測定に無駄がありすぎるのが現状です。今、行っている測定の強化のほかに、今の頻度のままで有効な検査にしぼるといふのならハードルが下げられないでしょうか。

国や自治体が安全と言っているのに、保護者が危険という判断をしたら回避させてもらえるような体制

添付資料の内容(議員さんには添付しています)

- ・国の指定する検査対象地域17都県と、検出された前例のあるもの
- ・移行係数の計算と、移行係数の高いもの
- ・横須賀市の1週間分ミックス検査の概要(ミックスでやるなら検出下限値0.1くらいでやるべき)
- ・キノコの危険さ(あちこちで基準値超過)
- ・しいたけ原木の産地。けっこう遠くまで東日本の原木が使われている
- ・お馴染みのグラフのいろいろ(しきい値なし仮説、内部被ばくに気を付けた人と気を付けなかった人の比較、1Bq/kgの慢性摂取と1000Bq/kgの1回摂取の比較、確立的影響と確定的影響の比較)
- ・経口摂取の実効線量係数